

氏名	金 賢善
職位	COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>「東アジア地域におけるサッカーの交流とナショナリズムの探求」</p> <p>東アジア地域におけるサッカーとナショナリズムの理解を次の点で考えて調査を行った。2010年、FIFA 南アフリカ共和国の世界カップアジア予選で北朝鮮と試合するようになった韓国のメディアの動向を調べ、その言説を分析した。こうした調査で現在の韓国社会における韓国という国家への帰属意識、またこの国家への所属とは別項目として存在する韓国—北朝鮮の間に存在する民族意識のあり方を考察することができたと思われる。そして朝鮮半島の韓国と北朝鮮の間で、分断国家という特殊性が、サッカーの世界カップという普遍的なイベントの場で、どのように取り扱われていたのか、その表象を分析した。その際、複数の境界線上に存在する選手が、ディアスポラなイメージをもって消費され、境界の曖昧性（民族主義と国家主義）を顕在化させてもいた。韓国のメディアの言説のなかで、韓国における国家と民族という帰属意識の葛藤の表象のあり方に着目し、考察を行った。</p> <p>さらに、それに加え、サッカーの試合で北朝鮮が日本にとってどのように映り、語れたのか、それがどのような他者性に繋がるのかなどを考えてみた。サッカーを契機として北朝鮮を巡る韓国、日本の観点の相違点と共有点を調査するのは、東アジア地域における相互理解を広げる機会であると考えられる。</p>	
<p>業績リスト</p> <p>論文</p> <p>「他者像と商業主義の遭遇」 2010年、京都大学人間・環境学研究科、社会システム研究</p> <p>その他</p> <p>2009年3月 GCOE 次世代研究報告書 『東アジア地域におけるサッカーの交流とナショナリズムの探求』</p> <p>2009年11月 第2回次世代グローバルワークショップにて口頭発表 Hanryu and Family: The Image of Otherness in the Korean Culture Wave in Japan</p>	